

Dell EMC Update Manager 1.0

ユーザーガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	4
Update Manager のロール ベースの権限.....	4
章 2: Update Manager のインストール	6
OpenManage Enterprise のアップデート設定.....	6
Update Manager のインストール.....	6
章 3: Update Manager の設定	8
Update Manager のプリファランス設定.....	8
プロキシの設定または編集.....	8
アラートの管理.....	9
アラート ログの表示.....	9
アラート ポリシーの作成.....	9
アラート ポリシーの管理.....	10
Update Manager の特定ジョブの表示.....	10
ジョブ リストの表示.....	10
ジョブタイプ.....	10
個別のジョブ詳細の表示.....	11
監査ログの表示.....	11
章 4: リポジトリの作成と表示	12
リポジトリの作成.....	12
SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成.....	13
リポジトリの詳細の表示.....	13
リポジトリ ダッシュボードの表示.....	14
デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック.....	15
ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアおよびドライバーのアップデート.....	16
章 5: リポジトリの管理	17
アップデート パッケージのインポート.....	17
リポジトリの削除.....	18
デバイス バンドルまたはアップデート パッケージの削除.....	18
リポジトリの更新.....	18
章 6: Update Manager のメンテナンス	20
Update Manager の無効化.....	20
Update Manager の有効化.....	20
Update Manager のアンインストール.....	20

はじめに

Dell EMC Update Manager プラグイン (UMP) は OpenManage Enterprise 向けの統合ソリューションであり、IT 管理者は、iDRAC または Windows オペレーティングシステムを実行する OpenManage Enterprise で管理される PowerEdge デバイスのリポジトリを作成し、管理することができます。対応 PowerEdge デバイスの詳細に関しては、OpenManage Enterprise の [サポートマトリックス](#) を参照してください。

リポジトリは、システムバンドルとそれに関連付けられている Dell Update Packages (DUP) で構成されています。システムバンドルは、同一のターゲットプラットフォームに適用され、同じ形式の関連するアップデートを配置するためにグループ化できるソフトウェアコレクションです。Dell EMC Update Package (DUP) は、標準パッケージ形式の自己完結型の実行可能ファイルで、Dell サーバーまたはストレージ上の BIOS、デバイスドライバ、ファームウェア、その他同様のソフトウェアアップデートなどの特定のソフトウェア要素をアップデートします。これらのバンドルおよびリポジトリは、複数のファームウェアアップデートの同時導入を可能にします。Update Manager は、EXE フォーマットの Dell EMC Update Packages (DUP) をサポートしています。

Update Manager では、次の操作を行って最新のファームウェアとソフトウェアでシステムを最新の状態に保つことができます。

- システムをアップデートするために、リポジトリを最新の状態に保つ。
- リポジトリ内にあるカタログの手動または自動アップデートを許可する。
- アップデートパッケージのインポートまたは削除によってリポジトリをカスタマイズする。
- リポジトリ内のコンポーネントのファームウェアをアップデートするために使用できる、リポジトリのベースラインを生成する。

トピック：

- [Update Manager のロールベースの権限](#)

Update Manager のロールベースの権限

以下の表に、Update Manager のユーザーロールの権限を示します。

表 1. Update Manager のロールベースの権限

機能	システム管理者	デバイス マネージャー	閲覧者
Update Manager のインストールまたはアンインストール	許可	未許可	未許可
Update Manager の有効化または無効化	許可	未許可	未許可
プロキシの構成	許可	未許可	未許可
プリファランス設定	許可	未許可	未許可
リポジトリの作成	許可	許可	未許可
アップデート パッケージのインポート	許可	許可	未許可
リポジトリまたはバンドルまたはアップデート パッケージの削除	許可	許可	未許可
リポジトリの更新	許可	許可	未許可
リポジトリ ダッシュボードの表示	許可	許可	許可
リポジトリの表示	許可	許可	許可

OpenManage Enterprise のロールベースの権限

次の表では、Update Manager ユーザーに必要な OpenManage Enterprise の機能を示しています。

表 2. OpenManage Enterprise のロールベースの権限

機能	システム管理者	デバイス マネージャー	閲覧者
ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアのアップデート	許可	許可	未許可
アップデート設定	許可	未許可	未許可
アラート ポリシーの作成	許可	許可	未許可

Update Manager のインストール

コンソールおよびプラグインページのアップデート設定を使用して、プラグインを検出します。次に、コンソールとプラグインページの **Update Manager** セクションからプラグインをインストールします。

トピック：

- [OpenManage Enterprise のアップデート設定](#)
- [Update Manager のインストール](#)

OpenManage Enterprise のアップデート設定

前提条件

- OpenManage Enterprise 3.5 がインストールされていることを確認します。
- オンライン ソースがアップデート用に選択されている場合は、安定したインターネット接続があることを確認します。
- ネットワーク共有がアップデートのソースとして使用されている場合は、dell.com から OpenManage_Enterprise_UpdateManager_1.0_A00.zip フォルダをダウンロードします。

手順

1. アプリケーションの設定、コンソールおよびプラグインの順にクリックします。
2. アップデート設定をクリックします。
3. 手動を選択します。このオプションを選択すると、指定されたソースからアップデートを手動でチェックすることができます。
 **メモ:** Update Manager の検出では、自動アップデートはサポートされていません。
4. アップデートを適用するソースを選択します。
 - **Dell.com** (オンライン) - アプライアンスは、https://downloads.dell.com/openmanage_enterprise から直接アップデートが入手可能かどうかを確認します。
 - **ネットワーク共有** (オフライン) - アプライアンスは、アップデート パッケージを含む指定した NFS、HTTP、または HTTPS パスからアップデートをチェックします。今すぐテストするをクリックすると、指定したネットワーク共有への接続が検証されます。
5. 適用 をクリックします。
 **メモ:** プラグインが検出された後に、Update Manager を手動でインストールする必要があります。

Update Manager のインストール

前提条件

コンソールとプラグインをアップデートします。

このタスクについて

Update Manager をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

1. Dell EMC OpenManage Enterprise を起動します。
2. アプリケーションの設定で、コンソールとプラグインをクリックします。
3. プラグインセクションで、**Update Manager** のインストールオプションをクリックします。プラグインのインストールウィンドウが表示されます。

4. **プラグインのダウンロード**をクリックします。
プラグインがダウンロードされ、ダウンロードのステータスが右上隅の緑色のバーに表示されます。
5. **インストール**をクリックします。
OpenManage Enterprise アプライアンスが再起動し、**アップデート管理**がプラグインの下に表示されます。

Update Manager の設定

トピック：

- Update Manager のプリファランス設定
- プロキシの設定または編集
- アラートの管理
- Update Manager の特定ジョブの表示
- 監査ログの表示

Update Manager のプリファランス設定

このタスクについて

リポジトリのバージョン制限は、プリファランスページで構成できます。このページには、リポジトリストレージが設定した制限を超えた場合にアラートを設定するオプションもあります。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで**プラグイン**を選択し、**アップデート管理**を選択してから、**設定**を選択します。
2. **プリファランス** をクリックします。
プリファランス ページが表示されます。
3. **バージョン管理**では、保存可能なリポジトリのバージョンの最大数を設定します。
 - **無制限**：このオプションはデフォルトで選択されており、1つのリポジトリに対してバージョンを無制限に格納することができます。
 - **最大バージョン数**：格納可能なリポジトリの最大バージョン数を入力します。リポジトリのバージョン数がこの値を超えると、最も古いバージョンが自動的に削除されます。
4. 使用可能なストレージ容量と総ストレージ容量が**ストレージ**の下に表示されます。
5. **ストレージ超過時にアラートフィールド**に、1~10の整数を入力します。
使用されているストレージがこの設定済み制限を超えた場合は、アラートが表示されます。ストレージスペースの合計が超過していない場合、リポジトリの作成は続行されます。
このフィールドのデフォルト値は10です。
6. **適用** をクリックします。
プリファランス設定を以前の値に復元するには、**破棄** をクリックします。

プロキシの設定または編集

このタスクについて

Update Manager プラグインを使用すると、OpenManage Enterprise プロキシの設定ができます。OpenManage Enterprise でプロキシが設定されている場合は、ここで編集して、OpenManage Enterprise で使用することができます。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで**プラグイン**をクリックし、**Update Manager** を選択してから、**設定**を選択します。
ネットワーク ページが表示されます。
2. **プロキシの設定**または**プロキシの編集**をクリックします。
3. **HTTP プロキシ設定を有効にする**を選択して、**プロキシアドレス**および**ポート番号**フィールドに情報を入力します。
4. プロキシで認証が必要な場合は、**プロキシ認証の有効化**を選択して、プロキシの認証情報を入力します。
5. **適用** をクリックします。

アラートの管理

リポジトリが更新されたとき、およびリポジトリ ストレージが設定された制限を超えたときに、アラートが生成されます。リポジトリの更新タスクについて、メール アラートを設定することもできます。

アラート ログの表示

OpenManage Enterprise から、アラートに移動し、アラート ログをクリックして、生成されたアラートを表示します。デフォルトでは、未確認アラートのみが表示されます。

アラートについての情報は、アラート ログの次の列に表示されます。

- **アラート**：アラートの重大度。
- **確認**：アラートが確認された場合は、**確認**にチェックマークが表示されます。**確認**の下にある角かっこの間をクリックして、アラートを確認または未確認にします。
- **時刻**：アラートが生成された時刻。
- **ソース名**：Update Manager によって生成されたすべてのアラートについて、ソース名が **N/A** と表示されます。
メモ：検出されていないデバイスまたは内部アラートのソース名は、アラートを生成したデバイスの IP アドレスです。この場合、ソース名に基づいてアラートをフィルタリングすることはできません。
- **カテゴリ**：カテゴリは、監査、設定、またはアップデート対象のアラート タイプを示します。
- **メッセージ ID**：生成されたアラートの ID。
- **メッセージ**：生成されたアラート。
- 右側のボックスには、選択したアラートの詳細説明や推奨処置などの追加情報が表示されます。

これらの列見出しのいずれかをクリックして、アラートをソートします。

詳細フィルターを使用してアラートをフィルタリングします。アラートのフィルタリングには、次の追加情報を使用できます。

- アラートが生成された**開始日**または**終了日**。
- **サブカテゴリ**：アラートのサブカテゴリ。
リポジトリの更新タスクに対して生成されたアラートをフィルタリングするには、**カテゴリ**ドロップダウン リストで**アップデート**を選択し、**サブカテゴリ**リストのリポジトリの**更新**をクリックします。
- **ユーザー**：管理者権限を持つユーザーによって処理されたアラートをフィルタリングすることができます。

アラート ポリシーの作成

このタスクについて

リポジトリ更新タスクのアラート ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

手順

1. アラートに移動し、アラート ポリシーをクリックして、**作成**をクリックします。
2. アラート ポリシーの名前と説明を入力して、**次へ**をクリックします。ポリシーの**有効化**チェック ボックスは、デフォルトでオンになっています。
3. **Update Manager** を選択し、**次へ**をクリックします。
4. **未検出デバイス**を選択し、**次へ**をクリックします。
5. **日付範囲**と**日数**に必要な値を選択し、**次へ**をクリックして、アラート ポリシーが適用される期間を指定します。
メモ：このステップは任意です。
メモ：Update Manager 用に作成されたアラート ポリシーに時間間隔を設定することはできません。
6. アラートの重大度を選択し、**次へ**をクリックします。
7. **E メール**を選択し、フィールドに情報を入力して、**次へ**をクリックします。
このオプションは、指定された受信者に E メールを送信します。Update Manager は、E メール通知のみをサポートしています。

メモ: 同じカテゴリー、メッセージ ID、およびコンテンツの複数のアラートに対する E メールは、受信トレイでの繰り返しまたは冗長なアラート メッセージを回避するため、2分ごとに1回のみトリガーされます。

8. 作成されたアラート ポリシーの詳細を確認し、完了をクリックします。

アラート ポリシーの管理

[アラート ポリシー] ページでアラート ポリシーが作成されると、編集、有効化、無効化、削除を行うことができます。さらに、OpenManage Enterprise は、アラートを受信したときに関連するアクションをトリガーする統合アラート ポリシーを提供します。これらの統合アラート ポリシーを編集または削除することはできませんが、有効または無効にすることができます。

作成されたアラート ポリシーを表示するには、アラートに移動し、アラート ポリシーをクリックします。すべてのアラート ポリシーを選択または選択解除するには、表のヘッダーにあるチェック ボックスを選択します。アラート ポリシーの横にある1つまたは複数のチェック ボックスを選択して、次のアクションを実行します。

- **編集:** アラート ポリシーを選択し、**編集**をクリックして、**アラート ポリシーの作成**ダイアログ ボックスで必要な情報を編集します。
- **有効化:** 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、**有効化**をクリックします。アラート ポリシーが有効になっている場合、**有効列**の下にチェックマークが表示されます。**有効化**ボタンは、すでに有効化されているアラート ポリシーに対しては非アクティブ化されています。
- **無効化:** 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、**無効化**をクリックします。アラート ポリシーが無効になり、**有効列**のチェックマークが削除されます。**無効化**ボタンと**編集**ボタンは、すでに無効化されているアラート ポリシーに対しては非アクティブ化されています。アラート ポリシーの作成時に**有効化**チェック ボックスをオフにした場合も、アラート ポリシーを無効にすることができます。
- **削除:** 1つまたは複数のアラート ポリシーを選択し、**削除**をクリックします。

Update Manager の特定ジョブの表示

このセクションでは、Update Manager のさまざまなジョブ タイプと、それらを表示する方法について説明します。

ジョブ リストの表示

OpenManage Enterprise から、**監視**に移動し、**ジョブ**をクリックして、既存のジョブ リストを表示します。ジョブに関する情報が、次の列に表示されます。

- **ジョブ ステータス:** ジョブの実行ステータス。
- **状態:** ジョブが有効または無効かどうか。
- **ジョブ名:** ジョブの名前。
- **ジョブ タイプ:** ジョブのタイプ。詳細については、「**ジョブ タイプ**」を参照してください。
- **説明:** ジョブの説明。
- **最終実行:** ジョブが最後に実行された日付と時刻。

これらの列見出しのいずれかをクリックして、ジョブをソートします。

詳細フィルターを使用してジョブをフィルタリングします。ジョブのフィルタリングには、次の追加情報を使用できます。

- **初回実行:** 指定された日付以降に実行されたすべてのジョブをフィルタリングします。
- **ソース:** すべて、ユーザー生成、システム生成のいずれかのジョブを選択します。

ジョブ タイプ

表 3. OpenManage Enterprise のジョブ タイプ

ジョブ タイプ	説明
UMP_Delete_Task	DUP とカタログの削除ジョブを表示します。
UMP_Download_Task	作成されたリポジトリの DUP とカタログのダウンロード ジョブを表示します。
UMP_Import_Task	DUP のインポート ジョブを表示します。

表 3. OpenManage Enterprise のジョブタイプ (続き)

ジョブタイプ	説明
UMP_Refresh_Task	DUP およびカタログの更新ジョブを表示します。
UMP_Update_Task	カタログのアップデートジョブを表示します。

個別のジョブ詳細の表示

特定ジョブの詳細を表示するには、ジョブを選択し、**詳細の表示**をクリックします。次の情報が表示されます。

- **ジョブの詳細**：
 - ジョブの名前、タイプ、説明、ステータスが表示されます。
 - ジョブのステータスが**停止**、**失敗**、または**新規**の場合は、**ジョブの再開**をクリックします。
- **実行履歴**：
 - ジョブの時間と期間、および完了した割合を表示します。
 - **詳細フィルター**セクションで、ターゲットシステムのステータスまたは名前でジョブをフィルタリングします。
- **実行の詳細**：ジョブが実行されたリポジトリとジョブにかかった時間を表示します。

ページの右側には、ジョブの**結果**とそれに関連付けられた**メッセージ**が表示されます。

監査ログの表示

監査ログは、OpenManage Enterprise で監視されているデバイスで実行されたアクションをリストします。ログデータは、ユーザーまたは Dell EMC サポート チームによるトラブルシューティングおよび分析に役立ちます。

監査ログを表示するには、**監視**をクリックしてから、**監査ログ**をクリックします。各監査ログの詳細は、次の列に表示されます。

- **重大度**：ログ内の情報の重大度。
- **タイムスタンプ**：ログ内のアクションが実行された日付と時刻。
- **ユーザー**：ログに記録されたアクションを実行したユーザー。
- **メッセージ ID**：生成されたログの ID。
- **ソースアドレス**：ログを生成したシステムの IP アドレス。
- **カテゴリー**：監査ログには 2 つのカテゴリーがあります。
 - **監査**：ユーザーが OpenManage Enterprise アプライアンスにログインまたはログアウトしたときに生成されます。
 - **設定**：ターゲット デバイス上で何らかのアクションが実行されると生成されます。
- **説明**：ログの説明。

任意の列見出しをクリックして、監査ログをソートします。

詳細フィルターを使用して、監査ログをフィルタリングします。**開始時刻**と**終了時刻**を使用して、指定した期間中に生成された監査ログをフィルタリングすることができます。

リポジトリの作成と表示

トピック：

- リポジトリの作成
- SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成
- リポジトリの詳細の表示
- リポジトリ ダッシュボードの表示
- デバイスのファームウェア/ドライバ アップデートのチェック

リポジトリの作成

前提条件

- サポートされている PowerEdge デバイスは、OpenManage Enterprise で検出および管理される必要があります。
- downloads.dell.com にアクセスするには、安定したインターネット接続があることを確認します。必要に応じて、OpenManage Enterprise の **プロキシ** を設定します。
- SUU ベースのカタログを使用するには、SUU ISO ファイルをネットワーク共有にダウンロードし、同じ場所に ISO ファイルを抽出します。詳細については、「[SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成](#)」を参照してください。

手順

1. OpenManage Enterprise ホーム ページで **プラグイン** をクリックし、**アップデート管理** を選択してから、**リポジトリ** を選択します。
2. **リポジトリの作成** をクリックします。
リポジトリの作成ウィンドウが表示されます。
3. **全般** セクションで、次の詳細情報を入力します。
 - **名前** - 一意のリポジトリ名を 175 文字以内で指定します。特殊文字は含まないようにしてください。
 - **説明** - リポジトリの説明を入力します。500 文字を超えないようにしてください。
 - **ベース カタログ** : ドロップダウン リストから **エンタープライズ サーバー カタログ**、**インデックス カタログ**、**ネットワーク共有** のいずれかを選択します。
 - **エンタープライズ サーバー カタログ** - Dell EMC PowerEdge サーバーおよびシャシ向け Dell Update Packages の最新のバンドルとメタデータがすべて含まれています。エンタープライズ サーバー カタログの最新バージョンがデフォルトで選択されます。
 - **インデックス カタログ** - ESXi や MX 検証スタックなどのソリューション固有のカタログ、およびすべてのエンタープライズ サーバー カタログの古いバージョンにアクセスできます。**カタログ グループ** ドロップダウン リストからカタログの種類を選択します。選択したカタロググループの使用可能なバージョンが、**カタログ** ドロップダウン リストに表示されます。
 - **ネットワーク共有** - このオプションを使用すると、任意のオフライン ネットワーク パスからカスタム エンタープライズ カタログを選択できます。**共有タイプ** ドロップダウン リストを使用して、ローカル ネットワーク共有からカタログを選択します。サポートされている共有タイプは、NFS、CIFS、HTTP、HTTPS です。

Dell EMC Repository Manager または Dell EMC Server Update Utility (SUU) ベースのカタログを使用して作成されたカタログを使用することもできます。

共有アドレスのサポートされている形式は、IPv4、IPv6、ホスト名です。サポートされている**カタログ ファイル パス**の形式は、/directory/subdirectory/file または directory/subdirectory/file です。**今すぐテスト**を選択すると、スキーマの検証が実行されます。これにより、ファイルが適切にフォーマットされ、不要なデータや破損したデータがなくなります。認証オプションの値を入力し、**今すぐテスト**を選択してネットワーク共有の接続をテストします。

選択したカタログのダウンロードに失敗した場合、アプライアンスが応答しなくなることがあります。ブラウザを更新して、OpenManage Enterprise を再ロードします。

- **カタログのアップデート** - 選択したカタログを手動または自動でアップデートすることができます。

アップデート頻度 ドロップダウン リストで、週次または日次の自動アップデートを設定します。日付を選択し、**HH:MM** フィールドで自動アップデートを行う時刻を指定して、**次へ** をクリックします。

- ①** **メモ:** リポジトリが最初に作成された 24 時間後に自動アップデートが開始するように設定されていることを確認します。
4. **デバイス/グループ**セクションで、リポジトリに必要なデバイスまたはグループを選択し、**次へ**をクリックします。
PowerEdge デバイスとそれらが配置されているグループが、**デバイスの選択**および**グループの選択**ウィンドウの左側に表示されます。
- **すべてのデバイス** - 選択したカタログ内のすべてのデバイスを選択します。
 - **デバイス** - 選択したカタログ内のデバイスのリストからデバイスを選択し、**OK** をクリックします。
 - **グループ** - 選択したカタログ内で使用可能なデバイスのグループ (複数可) を選択して、**OK** をクリックします。
5. **ベースライン情報**セクションでベースラインに対する一意の名前と説明を入力し、**次へ**を選択します。**ベースラインの作成**チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。
- ①** **メモ:** **ベースラインの作成**チェックボックスはオフにしないことをお勧めします。
6. **サマリー**セクションに、ここまで入力した情報のサマリーが表示されます。**終了** をクリックして、リポジトリを作成します。

タスクの結果

作成されたリポジトリが、リポジトリおよび**概要**ページに表示されます。**UMP_download_Task** ジョブがトリガーされ、カタログとそれに関連付けられているリポジトリの DUP がダウンロードされます。ダウンロードしたカタログと DUP は、**ジョブの詳細**ページの**メッセージ**セクションに表示されます。このダウンロードジョブが完了するまで、リポジトリは使用できません。ベースラインは、**設定**の下にある**ファームウェア/ドライバのコンプライアンス**ページに表示されます。

ネットワーク共有を使用してリポジトリが作成されている場合、カタログのバージョンは、**概要**と**リポジトリ**ページに**ネットワーク**として表示されます。SUU カタログを使用してリポジトリが作成されている場合、カタログバージョンは表示されません。

SUU ISO ファイルを使用したリポジトリの作成

このタスクについて

このセクションでは、SUU ISO ファイルを使用してリポジトリを作成する方法について説明します。SUU ベースのカタログを使用しない場合は、「**リポジトリの作成**」に移動します。

手順

1. 必要な SUU ISO ファイルを <https://www.dell.com/support/> からダウンロードします。詳細については、『*DELL EMC OpenManage Server Update Utility ユーザーズガイド*』を参照してください。
 2. ファイルをネットワーク共有に保存します。サポートされているネットワーク共有タイプは、NFS、CIFS、HTTP、HTTPS です。
 3. ISO イメージファイルを右クリックして、任意の抽出ユーティリティーを使用して同じネットワーク共有に抽出します。
 4. リポジトリフォルダーから、**Catalog.xml** ファイルのフォルダーパスをコピーします。
- ①** **メモ:**
- **Catalog.xml** ファイルのバージョン番号は表示されません。
 - **Catalog.xml** ファイルのファイル名は変更できません。
5. **リポジトリの作成**ワークフローで、**ベース カタログ**を**ネットワーク共有**に設定し、**共有アドレス**と**カタログ ファイルパス**に必要な情報を入力します。
- ①** **メモ:** **接続**のテストオプションでは、OpenManage Enterprise がその場所にアクセスできるかどうかを確認します。

リポジトリの詳細の表示

リポジトリは、**アップデート管理**の**レポジトリ**ページに一覧表示されます。リポジトリを展開すると、リポジトリ内にある**デバイスバンドル**と**コンポーネント**が表示されます。リポジトリの詳細が、次の列に表示されます。

- **名前**: リポジトリの名前。
- **バージョン番号**: リポジトリのバージョン番号。
- **サイズ**: リポジトリ内の DUP の合計サイズ。

① **メモ:**

- すべてのリポジトリの合計サイズが、使用可能な総ストレージ容量を超えているように見ることがあります。ただし、DUP が複数のリポジトリに存在する場合でも、DUP のコピーが1つだけ保存されます。
- リポジトリの作成時に ESXi カタログを選択した場合、リポジトリのサイズは 0 として表示されます。

- **変更日**：リポジトリが変更された日付と時刻。
- **ラベル**：各コンポーネントのアップデートの重要度が表示されます。デバイス バンドルを展開すると、各バンドルのコンポーネントが表示されます。
 - **重要** - コンポーネントはただちにアップデートする必要があります。
 - **メモ**：OpenManage Enterprise は、**緊急**の DUP を**重要**として分類します。
 - **任意** - コンポーネントのアップデートはオプションです。
 - **推奨** - コンポーネントのアップデートをお勧めします。
- **説明**：作成したリポジトリに付けられた説明。

名前、バージョン、または**変更日**をクリックして、列見出しに従ってリポジトリを並べ替えます。

選択したリポジトリの追加情報が、ページの右側に表示されます。

- コンポーネント アップデートの**重要度**レベルをまとめたドーナツ グラフ。
- リポジトリ内の**コンポーネント**数。
- リポジトリの作成時に**選択**された**デバイス**の数。リポジトリの作成後に追加または削除したデバイスは、**デバイスフィールド**に反映されません。
- **カタログ バージョン**：リポジトリが作成されたカタログのバージョン。
- **使用可能なカタログ バージョン**：カタログの使用可能な最新バージョン。
- リポジトリの**すべてのバージョン**。

詳細フィルターセクションを使用して、以下のいずれかのコンポーネントでリポジトリをフィルタリングします。

- **名前**：デバイスまたはコンポーネントの名前を入力します。
- **重要度**：ドロップダウン メニューからコンポーネント アップデートの重要度を選択します。
- **メモ**：OpenManage Enterprise は、**緊急**の DUP を**重要**として分類します。
- **カテゴリー**：コンポーネントのカテゴリーを選択します。
- **タイプ**：アップデートのタイプを選択します。

フィルターが適用されたら、リポジトリを展開して、フィルタリングされたコンポーネントを表示します。任意のリポジトリのデバイス バンドルがフィルタリングされた条件を満たしていない場合、その下に赤色のバーが表示されます。

リポジトリ ページでは、次の機能もサポートされています。

- [1つまたは複数のリポジトリとリポジトリ バージョンの削除](#)
- [1つまたは複数のリポジトリ バンドルとアップデート パッケージの削除](#)
- [アップデート パッケージのインポート](#)
- [リポジトリに関連付けられているカタログのアップデート](#)

リポジトリ ダッシュボードの表示

[アップデート管理] の**概要**ページには、既存のすべてのリポジトリを表示するダッシュボードが含まれています。リポジトリの次の詳細情報が表示されます。

- リポジトリ名。
- **現在のバージョン**：現在のリポジトリのバージョン番号が表示されます。バージョン番号をクリックすると、特定のリポジトリのバージョンのリストが表示されます。
- リポジトリ内の**デバイス**数。
- リポジトリ内に存在する**カタログ**のバージョン。
- リポジトリ内の**コンポーネント**の数と、それらの**アップデート**の**重要度**の**レベル**。

リポジトリの**表示**をクリックすると、選択したリポジトリの詳細情報がリポジトリページに表示されます。

デバイスのファームウェア/ドライバー アップデートのチェック


このタスクについて

このセクションでは、ベースラインの各デバイスと関連付けられたカタログのコンプライアンスを確認する方法について説明します。







リポジトリの作成時にベースラインの作成チェック ボックスが選択されている場合、そのリポジトリに関連付けられているベースラインが、設定セクションのファームウェア/ドライバーページに表示されます。Update Manager によって作成されたベースラインのコンプライアンスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

1. 設定、ファームウェア/ドライバーのコンプライアンスの順にクリックします。
2. 必要なベースラインのチェック ボックスを選択します。
3. コンプライアンスのチェックをクリックし、ベースライン コンプライアンス ジョブが完了するまで待ちます。

 **メモ:** デバイスがカタログに関連付けられていない場合は、コンプライアンスが検証されません。関連付けられて、コンプライアンスの表に一覧表示されているデバイスに対してのみ、ジョブが作成されます。

右側のペインにあるドーナツ グラフには、ベースライン コンプライアンスのサマリーと、それぞれのカタログが表示されます。複数のデバイスが1つのベースラインに関連付けられているときは、そのベースラインに対するコンプライアンス レベルの一番低いデバイスのステータスが、そのベースラインのコンプライアンス レベルとして示されます。

4. コンプライアンス レポートを表示するには、右側のペインでレポートの表示をクリックします。ベースライン コンプライアンス レポートが表示され、次の情報を提供します。
 - **コンプライアンス レベル:** デバイスのファームウェアと関連付けられたベースライン カatalogのコンプライアンス レベルを示します。
 - **OK**  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンは、関連付けられているベースライン カatalogと同じです。
 - **重要**  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンがベースライン カatalogに準拠していないため、直ちにアップデートする必要があります。
 - **警告**  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンがベースラインに準拠していないため、アップグレードする必要があります。
 - **ダウングレード**  — デバイス コンポーネントのファームウェアまたはドライバーのバージョンが、ベースラインのバージョンより新しいものです。
 - **タイプ:** コンプライアンスレポートが生成されるデバイスのタイプ。
 - **デバイス名/コンポーネント:** デフォルトでは、デバイスのサービス タグが表示されます。デバイス名をクリックして、コンポーネントのリストと、最新のカタログとのコンプライアンスを表示します。
 -  **メモ:** 関連付けられたファームウェア ベースラインに準拠しているすべてのデバイス (MX7000 シャーシを除く) については、デバイス名は表示されません。
 - **サービス タグ:** サービス タグ番号をクリックすると、<デバイス名>ページにデバイスについての詳細情報が表示されます。
 - **再起動が必要:** ファームウェアをアップデートした後でデバイスの再起動が必要であることを示します。
 - **情報**  : 各デバイス コンポーネントに対応するアイコンは、ファームウェア/ドライバーをアップデートできるサポート サイト ページにリンクしています。
 - **現在のバージョン:** デバイスの現在のファームウェアバージョンを表示します。
 - **ベースライン バージョン:** 関連カタログで使用可能なデバイスの対応ファームウェア/ドライバーのバージョンを示します。
- デバイスまたはコンポーネントを検索するには、**詳細フィルター**セクションで情報を選択または入力します。

タスクの結果

このベースライン コンプライアンス レポートを使用して、ベースラインに関連付けられているデバイスおよびコンポーネントのファームウェアおよびドライバーをアップデートすることができます。詳細については、『Dell EMC OpenManage Enterprise バージョン 3.5 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

ベースライン コンプライアンス レポートを使用したファームウェアおよびドライバーのアップデート

前提条件

- プロキシ設定を使用して HTTP および HTTPS 共有を設定している場合は、アップデート タスクを開始する前に、これらのローカル URL がプロキシ例外リストに含まれていることを確認してください。
- 任意の時点でターゲット マシン上で開始できるアップデート タスクは1つのみです。

このタスクについて

ベースライン コンプライアンス レポートを使用して、ベースラインに関連付けられているデバイスまたはコンポーネントのファームウェアまたはドライバーをアップデートすることができます。

手順

1. アップデートするデバイスを含むベースラインで、**レポートの表示**をクリックします。
2. 1つまたは複数のデバイスまたはコンポーネントのコンプライアンス レベルをチェックし、対応するチェック ボックスを選択します。
必要に応じて、**詳細フィルター**を使用してデバイスまたはコンポーネントを指定します。すべてのチェック ボックスを選択するには、列見出しのチェック ボックスを選択します。
3. **一致させる**をクリックします。
4. **アップデートのスケジュール**で、次のいずれかを選択します。
 - **今すぐアップデート**：ファームウェア/ドライバーのアップデートをすぐに適用します。
 - **実行日時を指定**：ファームウェアまたはドライバーのバージョンをアップデートする日時を指定します。このモードは、現在のタスクに影響を与えたくない場合に推奨します。
5. **サーバー オプション**で、次のいずれかを選択します。
 - **サーバーを今すぐ再起動**：ファームウェアまたはドライバーのアップデート後にサーバーを再起動します。
 - **次回サーバー再起動までステージング**：サーバーが次回再起動したときに、ファームウェアまたはドライバーをアップデートします。
i **メモ**：ファームウェア/ドライバーのアップデート ジョブがこのオプションを使用して作成された場合は、リモート デバイスにパッケージをインストールした後で、インベントリーとベースラインのチェックを手動で実行する必要があります。
6. **iDRAC をリセット**を選択して、アップデート ジョブを開始する前に iDRAC を再起動します。
i **メモ**：この機能は、ドライバーのアップデートではサポートされていません。
7. **ジョブ キューをクリア**を選択して、アップデート ジョブが開始される前に、ターゲット デバイス上のすべてのジョブを削除します。
8. **アップデート** をクリックします。

リポジトリの管理

Update Manager では、次のリポジトリ機能がサポートされています。

- リポジトリまたはデバイス バンドルにアップデート パッケージをインポートする。
- リポジトリを削除する。
- デバイス バンドルおよびアップデート パッケージを削除する。
- リポジトリを更新する。

これらのいずれかの機能のジョブが進行中の場合、他の操作は許可されません。

リポジトリのバージョン管理 - リポジトリの削除以外の前述のいずれかのアクションを実行すると、新しいバージョンのリポジトリが作成されます。バージョン番号は 0.01 ずつ増加します。リポジトリのバージョンがアップデートされない場合は、ブラウザを更新するか、別のページに移動します。リポジトリが持つことができるバージョンの数は、[アップデート管理のプリファランス](#)で構成された制限によって異なります。

メモ: リポジトリのバージョン番号の変更は、[監査ログ](#)に反映されません。最新バージョンのリポジトリを表示するには、[概要](#)またはリポジトリページに移動します。

トピック:

- [アップデート パッケージのインポート](#)
- [リポジトリの削除](#)
- [デバイス バンドルまたはアップデート パッケージの削除](#)
- [リポジトリの更新](#)

アップデート パッケージのインポート

このタスクについて

アップデート パッケージは、1つまたは複数のリポジトリまたはデバイス バンドルへのローカル パスからのみインポートすることができます。.EXE ファイル形式のパッケージのアップデートのみがサポートされています。

手順

1. OpenManage Enterprise から [アップデート管理](#) に移動し、[リポジトリ](#) をクリックします。
2. アップデート パッケージをインポートするリポジトリまたはバンドルを選択し、[インポート](#) をクリックします。
 - すべてのリポジトリを選択するには、[名前](#)の左側にあるチェック ボックスを選択します。
 - 1つまたは複数のリポジトリを選択するには、該当のリポジトリの横にあるチェック ボックスを選択します。
 - 1つまたは複数のバンドルを選択するには、リポジトリを展開し、該当のデバイスの横にあるチェック ボックスを選択します。
3. [参照](#) をクリックして、ローカル システムからアップデート パッケージを選択します。
アップデート パッケージをデバイスまたはリポジトリに適用できない場合は、エラー メッセージが表示されます。

メモ:

- アップデート パッケージに有効な署名がない場合、インポート操作は正常に行われません。
- インポートする DUP のファイル名を変更しないことをお勧めします。

4. インポート ジョブが完了したら、[終了](#) をクリックします。

タスクの結果

インポート ジョブが正常に完了すると、リポジトリのベースラインとカタログもアップデートされます。リポジトリがアップデートされ、そのバージョンは 0.01 ずつ増加します。

リポジトリに同じタイプのアップデート パッケージが存在する場合は、インポートされたアップデート パッケージに置き換えられます。アップデート パッケージがリポジトリ内の別のアップデート パッケージとまったく同じである場合は、リポジトリに変更は加えられません。

リポジトリの削除

このタスクについて

リポジトリを削除するには、次の手順を実行します。

手順

1. プラグインから**アップデート管理**に移動し、リポジトリをクリックします。
2. 1つまたは複数のリポジトリを選択して、**削除**をクリックします。
3. 削除するリポジトリの特定のバージョンを選択するか、**すべてのバージョン**を選択します。
4. **削除** をクリックします。

タスクの結果

ジョブの削除が正常に完了すると、リポジトリが削除され、**概要**とリポジトリページに表示されなくなります。リポジトリを使用して作成されたベースラインとカタログは、**ファームウェア/ドライバのコンプライアンス**ページからも削除されます。

デバイスバンドルまたはアップデート パッケージの削除

このタスクについて

リポジトリからデバイス バンドルを削除したり、パッケージをアップデートしたりするには、次のタスクを実行します。

手順

1. プラグインから**アップデート管理**に移動し、リポジトリをクリックします。
2. デバイス バンドルまたはアップデート パッケージを選択します。
 - 1つまたは複数のデバイス バンドルを選択するには、リポジトリを展開し、該当のバンドルの横にあるチェック ボックスを選択します。
 - デバイス バンドルを展開し、コンポーネントの横にあるチェック ボックスを選択して、1つまたは複数のアップデート パッケージを選択します。
3. **削除** をクリックします。
4. **削除** ウィンドウのチェック ボックスを選択して、既存のすべてのバンドルからアップデート パッケージを削除します。
5. **削除** をクリックします。

タスクの結果

デバイス バンドルまたはアップデート パッケージがリポジトリから削除されます。リポジトリがアップデートされ、そのバージョンは 0.01 ずつ増加します。

リポジトリが後で更新された場合は、削除されたデバイス バンドルとアップデート パッケージと一緒にアップデートされます。

リポジトリの更新

前提条件

リポジトリに十分なストレージ スペースがあることを確認します。リポジトリのストレージ スペースを管理するには、「[削除](#)」セクションを参照してください。

このタスクについて

リポジトリ更新タスクは、リポジトリ内にあるカタログを、使用可能な最新バージョンに置き換えます。カタログは、自動的に、または手動で更新することができます。自動更新スケジュールは、リポジトリの**作成時**に選択されます。自動更新タスクが完了すると、**最終実行日時**と**次回実行日時**が、選択した更新ジョブの [ジョブ] ページに表示されます。

リポジトリを手動で更新するには、次の手順を実行します。

手順

1. プラグインから**アップデート管理**に移動し、リポジトリをクリックします。
2. リポジトリの横にあるチェックボックスを選択します。
3. ページの右側に移動し、**最終更新日**の横にあるアイコンをクリックします。
カタログが以前にアップデートされた場合、最後にカタログがアップデートされた日付と時刻が表示されます。

タスクの結果

リポジトリに関連付けられているカタログは、OpenManage Enterprise のデフォルトのリポジトリの場所で、使用可能な最新バージョンにアップデートされます。カタログのバージョンは、**ファームウェア/ドライバーのコンプライアンスのカタログ管理**ページでもアップデートされます。最新のベースラインおよびアップデートパッケージを使用して、ベースラインコンプライアンスレポートを生成します。リポジトリがアップデートされ、そのバージョンは 0.01 ずつ増加します。

デバイスバンドルまたはアップデートパッケージが以前に削除された場合は、リポジトリの更新ジョブによって、削除されたバンドルおよびアップデートパッケージと一緒にリポジトリがアップデートされます。

ストレージスペースが不足している場合、リポジトリは正常に更新されず、それぞれの**アラート**ログと**監査**ログが生成されます。

メモ: デバイスが OpenManage Enterprise のグループに追加または削除された場合、そのデバイスはリポジトリの更新時に反映されません。リポジトリの更新タスクでは、リポジトリの作成時に追加されたデバイスグループのコンポーネントのみが更新されます。

Update Manager のメンテナンス

トピック：

- [Update Manager の無効化](#)
- [Update Manager の有効化](#)
- [Update Manager のアンインストール](#)

Update Manager の無効化

手順

1. アプリケーションの設定、コンソールおよびプラグインの順にクリックします。
2. **Update Manager** セクションに移動し、**無効化**をクリックします。
3. プラグインの**無効化**をクリックします。
4. **確認**ウィンドウのチェック ボックスを選択して、**無効化の確認**をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、プラグインセクションの下に**アップデート管理**は表示されなくなります。Update Manager によって作成されたベースラインは、プラグインが無効化されている場合でも使用できます。

Update Manager の有効化

このタスクについて

プラグインが無効化されたら、次の手順を実行して有効にすることができます。

手順

1. アプリケーションの設定、コンソールおよびプラグインの順にクリックします。
2. **Update Manager** セクションに移動し、**有効化**をクリックします。
3. プラグインの**有効化**をクリックします。
4. **確認**ウィンドウのチェック ボックスを選択して、**有効化の確認**をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、プラグインセクションの下に**アップデート管理**が表示されるようになります。

Update Manager のアンインストール

手順

1. アプリケーションの設定、コンソールおよびプラグインの順にクリックします。
2. **Update Manager** セクションに移動して、**アンインストール**をクリックします。
3. プラグインの**アンインストール**をクリックします。
4. **確認**ウィンドウのチェック ボックスを選択して、**アンインストールの確認**をクリックします。

タスクの結果

アプリケーションが再起動し、**アップデート管理**が**プラグイン**セクションに表示されなくなります。プラグインがアンインストールされると、そのプラグインによって作成されたすべてのカタログとベースラインがクリアされ、使用できなくなります。